

小学生の宿題サポート

先生は飛驒高山高生

高山 北小児童に「寺子屋」



高校生に教わりながら問題を解く児童＝高山市下岡本町で

夏休みに入った地域子どもたちに勉強を教える「寺子屋北まち」が25日、高山市下岡本町の富士会館であった。同市北小学校の児童51人が、飛驒高山高校の生徒らの手助けを受けながら楽しく宿題を進めた。北地区まちづくり協議会が、コロナ禍で子ども食堂ができなくなった2021年、子どもと地域のつながりづくりのために始めた。教員を退職した地域の大人たちに加え、昨年から高校生も募り、今年は22、23日と25、26日の4日間で、のべ63人の生徒がボランティアで参加する。

この日は、12人の高校生らに見守られた児童たちが国語や算数のワークに集中して取り組んだ。「しるす」の漢字に悩むと「日記」にはその日あったことを「記す」よね」、単位を換算する問題では「1リットルは何リットルだっけ？」などと、高校生がヒントを提示。答えがわかると、得意げに鉛筆を動かした。同小3年の細貝くるみさん(9)は「優しく、いっぱい教えてくれた。学校でするより楽しい」と満面の笑み。子どもが好きて参加した下出星来さん(7)は「答えを先に言わないよう心がけた。分かってもらえたときはずれしかった」とやりがいを感じていた。

(北川鈴乃)

夏休み、児童の学習支援

飛驒高山高生ら「寺子屋北まち」



高校生に勉強を教えてもらう小学生ら＝高山市下岡本町、富士会館

小学生の夏休みの学習を高校生が支援する「寺子屋北まち」が25日、高山市下岡本町の富士会館で開かれた。北地区まちづくり協議会主催。夏休み期間の子ども

たちの見守りや、学習支援をしよう企画し、今年で4年目を迎える。この日は北小学校の児童約50人と、飛驒高山高校の生徒ら高校生12人が参加。会場では、児童が持ち寄っ

た宿題を机の上に広げ、高校生が寄り添って勉強を教えていた。2年生の伊藤千真さん(7)と香賀花楓さん(7)は「高校生のお姉さんが優し

く教えてくれた。夏休みの宿題は終わった」と笑顔をみせ、「プールや旅行、買い物をして、最高の夏休みにしたい」と話していた。

(市原萌子)